

(別紙3)

新潟県における効果的な捕獲に係る新技術の地域実証評価報告
(効果的捕獲促進事業)

1 対象指定管理鳥獣の種類、技術名、実証地域及び時期

指定管理鳥獣名	ニホンジカ
技術名	積雪地帯におけるシャープシューティング
実証地域	十日町市中里清津スキー場及びその周辺
実証時期	令和6年11月～令和7年3月
実施体制	新潟県、認定鳥獣捕獲事業者、関係事業者
事業費	6,998,200円

注：実証地域の位置が分かる地図を添付すること。

2 現状の指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲の目的・目標、実施状況、効果、課題等

指定管理鳥獣捕獲等事業では、個体数を減少させるため、生息密度が高い又は生息域が拡大している地域において捕獲を実施している。

近年、本事業により捕獲実績のあったメッシュにおいて、翌年度目撃効率の低下及び低水準の維持がみられる。捕獲実施エリアによっては、小雪だと銃猟による捕獲の難易度が上がり、高標高域だと大雪によりシカが移動してしまうなど、捕獲実績が低調になってしまう条件がエリアによって異なり、苦慮している。

注：捕獲等事業によって目指す地域の状況や、軽減したい被害に関する目標、そのために必要な密度低減の考え方や捕獲数、捕獲の実施状況・効果・課題等を記載すること。

3 地域実証する技術の目的・目標・具体的な内容・効果等

県内でニホンジカの生息密度が高い地域は高標高域となっており、ニホンジカ捕獲等事業の実施にあたり、降雪の影響を大きく受ける。そこで、降雪地域特有の技術の開発を目的として、ニホンジカが牧草地に類似した採餌空間としてスキー場を利用していることが判明したことから、冬季において、スキー場のゲレンデ等で誘引によるシャープシューティングを実施した。技術が確立され、県内のスキー場に普及した場合、集中的な捕獲が期待できるほか、県基本方針にもとづくゾーニング（人と野生鳥獣の棲み分け）の展開も進めることができる。

注1：2を踏まえて、地域実証する目的や必要性、実証の場所や日程、方法、内容、想定される効果等

を具体的に記載すること。

注2：実証する技術の写真や内容等の概要が分かる資料を添付すること。

注3：事業終了後の評価報告においては、注1～2について実施した内容・結果を具体的に記入すること。

4 技術の効果の検証・評価結果

12月はまとまった降雪が見られず、エサ不足に至らなかったため、ゲレンデ等への寄り付きは見られなかった。その後、モニタリングにより2月の大雪の影響でニホンジカが下りてきたところを捕獲した。本地域（メッシュ）は、例年、有害鳥獣捕獲や狩猟による捕獲実績が少ない地域であるため、捕獲圧を強化できた。

注：3を踏まえ、実施結果の確認方法や目的・目標に対する地域実証の効果を図るための指標（被害指標や密度指標等）やその収集方法、評価の方法等について記入すること（事業終了後の評価報告においては、その評価結果を具体的に記入すること。）。

5 技術の活用・普及方法、その他

ニホンジカの生息域拡大に伴い、スキー場においてもニホンジカが目撃されるようになってきている。近年は季節移動しないニホンジカの存在が判明し、このようなニホンジカであれば冬季以外でも本技術による捕獲が可能であるため、上記の捕獲効果を踏まえて、事業評価完了後に関係事業者・団体との情報共有を図る。

注1：地域実証する技術の活用・普及方法について記載するとともに、地域実証に当たって、特記すべき事項があれば記入すること。

注2：事業終了後の評価報告において、特記事項に対するコメントがあれば記入すること。

【実証地域】

令和7年度の冬季の降雪予報やニホンジカの日撃情報等により、指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画における捕獲実施エリアのうち、認定鳥獣捕獲等事業者及び有識者等の意見を踏まえて実証地域を選定。

● 中里清津スキー場

